



ともにいること。 ともに食べること。

アフリカ アジア わたしたちの食

弘前大学資料館第31回企画展



2022 12/16 fri. — 2023 3/16 thu.

10:00 — 16:00 (日曜, 祝日, 年末年始 (12月28日 — 1月4日), 1月14日休館)

会場 弘前大学資料館 **入場無料**

主催: 弘前大学資料館・弘前大学人文社会科学部

共催: 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・

日本アフリカ学会東北支部会・NPO アフリック・アフリカ

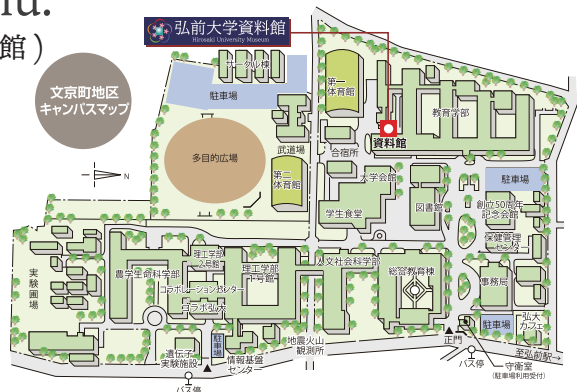
協力: 青森県立郷土館

座馬耕一郎 (長野県看護大学)、金子守恵 (京都大学)

令和4年度後期・教養教育「地域プロジェクト演習「弘前の文化資源」」受講生

令和4年度前期・後期「民俗学実習Ⅰ・Ⅱ、民俗誌実習Ⅰ・Ⅱ」受講生

問い合わせ 弘前大学資料館 ☎ 0172-39-3432



ともにいること・ともに食えること アフリカ・アジア・わたしたちの食

【会場】弘前大学資料館企画展示スペース

【会期】2022年12月16日(金)～2023年3月16日(木)10:00～16:00

(日曜・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)・1月14日休館)



ここ3年のなかで、ついに越しにご飯を食べる姿は、私たちのくらしにすっかり定着しています。新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちはこれまで当たり前だと思ってきた会って話す、いっしょにご飯を食べるという行為をしにくい時を過ごすことになりました。このように人と人との密接な関わりができなくなった現在は、私たちにとって、なぜ人と会うことが大切なのかを改めて考えるよい機会なのかもしれません。

この展示ではアフリカやアジア、日本の各地でフィールドワークをしてきた教員や学生の日頃の研究成果を持ち寄って、アフターコロナの時代に私たちが何を大切にしなければならないのかを写真と資料をもとに考えます。

展示内容

1. 共食とは

ともに食べる行為を「共食」と言います。チンパンジーと人間の「共食」を比較しながら、食から人間らしさを考えます。

2. アフリカの食

アフリカ社会の研究者たちがさまざまなフィールドでみて、人びとと食べてきたもの、食事の場面を写真と資料で紐解きます。

3. アジアの食

中国雲南省の少数民族ハニを対象とした食の研究、そして教員が経験したインドでの結婚式の写真から、アジアの「集まって食べる」を考えます。



4. わたしたちの食

学生たちによる弘前大学の学生の食生活の観察・聞き取り調査、民俗学実習の野辺地調査の結果からわたしたちの食の過去・現在をながめます。

5. あつまること

わたしたちは身近な人同士が集まるためにツールを発展させてきました。それらのツールから、改めてわたしたちにとってあつまるとともに食べる意味を考えます。

写真(表) 左上: 動物の肉を分けあって食べるチンパンジー

左下: 子どもたちで集まってひるごはん(ウガンダ)

右上: 結婚を祝って共食するハニの女性たち(中国)

右下: マスク着用で「同じ釜の飯」を食べる実習学生(日本)

(裏) 上: 透明なついでに越しにご飯を食べる(日本)

中: 家の新築祝いをするハニの男性たち(中国)

下: 儀礼で捧げたヤギのふるまい料理を食べる人たち(タンザニア)



本展示は弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターのプロジェクト「研究におけるフィールド調査の重要性」に関する多分野横断型研究」の成果の一部です。